

2019年度 社会福祉法人 進和学園 事業計画（案）

改正社会福祉法の施行から2年が経過、運営の透明性の確保、経営組織・財務規律の強化が社会福祉法人に求められ、その対応のため組織再編を図り取り組んでまいりました。さらに公益的取組として、福祉制度にのらない地域の複合的ニーズへの対応を社会福祉法人が求められる時代になっています。地域の顔の見える関係による「地域の支え合い」が重要であり、公益性、非営利性のある社会福祉法人はその活動を支えることを期待されています。進和学園は地域に根ざして、利用者ご本人の生活支援、就労支援、子育て支援等を展開してきました。よって社会福祉法人としての在り方、役割を銘じて、さらに地域と連携を図り、共に生きる社会の実現に向けて取り組んでまいります。

今後の施設の役割・機能については、利用者ご本人の暮らし、仕事、日中活動のスタイルは、ご本人の意思決定を尊重し、ライフサイクルの中で必要な支援を必要な時期に受けられようなセーフティネットとして地域生活を支える拠点機能を推進します。また、権利擁護、虐待防止については、法人人権委員会を中心に各施設引き続き取り組んでまいります。

進和学園は地域・社会に支えられ61年目を迎えます。「本人中心」の理念を徹底尊重し、利用者ご本人の幸せとご家族の安心のために生活支援、就労支援、相談支援、療育支援、子育て支援の実践に職員一丸となって取り組むと共に、地域の社会資源として貢献できるよう努めてまいります。

《重点課題 法人運営》

- 1 理事会、評議員会、運営協議会の役割機能を推進。情報収集、協議調整、決定のプロセスで、利用者・地域のニーズを事業に反映し、先駆的、創造的的事业に取り組める体制を推進します。
- 2 福祉人材の確保に積極的に取り組みます。新卒及び中途採用について採用人事サポートチームの取組を推進します。特に保育士の人材確保は大きな課題となっております。障がい部門と共同し養成交校への学校訪問など工夫しながら推進していきます。
- 3 消費税増額に伴う10月度から変更される予定の福祉・介護職員処遇改善加算の対応に向けて準備します。
- 4 改正社会福祉法により毎会計年度、保有する財産から事業継続に必要な財産を控除した上、社会福祉充実残額を算定することになっています。当該残額が生じる場合には社会福祉充実計画を策定し、当該残額を計画的かつ有効に再投下していくこととなります。（進和学園は平成29年度決算では△189,220千円でした）
- 5 会計監査人設置については段階的に対象範囲が拡大される予定で、平成31年度からは収益20億円又は負債40億円を超える法人が対象になるとされていましたが延期されました。実態調査を経て対応が決定されるため、その動向を注視してまいります。
- 6 公益的な取組については現在、在宅障がい者に対する食事提供(実費)・生活支援、平塚市民の花なでこの苗栽培と無料配布、湘南平あじさい管理、陶芸体験教室、地域ふれあい交流事業、環境緑化・環境教育、地域防災への協力、まちの活性化イベントへの協力等に取り組んでいます。さらなる展開に努めてまいります。

《重点目標Ⅰ 施設整備》

1 やましろホームの住環境の整備について

やましろホームは開設から33年が経過し、加齢により歩行困難な利用者が増えてきました。このため、住環境のバリアフリー化やエレベーターの設置を計画します。エレベーター設置につきましては平成31年度事業として神奈川県共同募金会様に助成金の申請をしています。また自閉的傾向や行動障がいのある利用者ご本人にとっては、大きい集団での活動が難しい面があります。そのため日中活動のスペースや雨天時の活動場所が必要です。隣接するあさひホーム等との包括的対応で引き続き検討してまいります。

2 グループホームの拡充について

利用者ご本人の支援度の高まり、ご家族の高齢化などを理由に入所のニーズは高まるものの、国の方針として入所定員は増えることはありません。よってグループホームの休日・夜間体制の強化と障がいの重い人でも利用できる体制が必要となります。小規模な暮らしを基本としたバリアフリーのグループホームを、引き続き検討してまいります。この度、地域の地権者より山城中学校南側の 330 坪の土地に法人の希望する建物を建築いただける提案をいただきました。各事業所の代表職員をはじめ家族会の意見を取り入れ外部事業所の見学等を参考にしながら既存の枠にとらわれない地域に開かれたグループホームを計画してまいります。

《重点目標Ⅱ 施設運営》

1 保育園部門の運営について

「しらゆり保育園」は、保育ニーズに合わせ定員内（定員 60 名）で各年齢の人数を変更し、待機児童対策に努めます。また、「いずみ保育園隣接地の農地」を有効に活用し、「いずみ保育園」の他「富士見保育園」「しらゆり保育園」も使用しながら保育の充実に努めます。「子ども中心」「子ども達の最善の利益」を守るため、保育の質を高められるよう園内の研修等積極的に取り組みます。

2 人材育成の推進について

階層別研修と各施設でのスーパーバイザー方式の人材育成・定着を人材育成・人事考課制度委員会を中心に、キャリアアップ研修、国家資格取得奨励を、職員養成委員会を中心におこないます。職員の資質向上に資する外部を含めた研修参加を、職員個々の希望もくみ取って推進します。人権委員会及び職員養成委員会協調による人権擁護に係る研修も、引き続き積極的に推進してまいります。

3 人事考課制度の確立について

職務遂行・貢献度に応じた自己評価・施設評価・法人評価を給与面・昇給等に反映している等制度は、運用 4 回目を迎えるに当たり、平成 30 年度は階層、職域別の項目や、評価軸の設定をおこないました。また考課者についても、管理者に加え管理職が一時考課、二次考課を担当、実施しました。本年は、より適正なものとなるよう人材育成・人事考課制度委員会を中心に検討、推進してまいります。

4 運営システムや IT の活用等について

業務の効率化及び人手不足を補うことのできるよう、グループウェアシステムの改善・充実に努めていきます。平成 30 年度はスマートフォン対応のホームページへ改訂し、情報の公開・発信を円滑化し人材確保の一翼を担いましたが、本年も引き続き推進します。また情報管理体制を再確認し、安全なネットワークを再構築していくことで情報漏えいに注意を払います。

5 生活体系の検討・推進について

- ①ビーライトしんわ（定員 10 名の中高生の放課後支援、定員 10 名の発達障がい有する中高生のグループ療育支援）としんわブライ（定員 10 名の発達障がい有する小学生を中心とする児童へのグループ療育支援）の 2 事業所で放課後等デイサービス事業を運営し、他事業所での受け入れが難しい重度障害や発達特性を有する児童を積極的に受け入れることで地域に貢献します。事業環境の変化を把握し実状に応じた運営形態を模索し続けながら、地域の支援ニーズに応える専門的な知識と技術のさらなる向上に引き続き取り組みます。
- ②高齢化、重度化する利用者に対して介助技術等の向上を図ると共に、健康管理に最大限配慮し、医療機関と連携して各種検査を行い早期発見、早期治療に努めます。引き続き保健・給食の総合的な協力体制のもと、一人ひとりに個別的な支援を提供してまいります。
- ③地域生活支援の拠点機能の推進として、在宅の方、グループホーム、単身生活者等を支えるために各入所施設を中心に、緊急受入の短期入所、災害時の防災拠点、相談機能、専門性推進等の機能を強化してまいります。他の法人、福祉関係団体等との連携も強化し「防災」「福祉教育」に取

り組んでまいります。

6 相談支援事業について

サンシティの相談支援事業では、行政機関より委託を受けて実施している相談業務において年々発達障がいや引きこもり、家族支援が必要な場合等難しいケースが増えています。引き続き一般相談やサービス等利用計画作成に対応します。またビーライトしんわは障がい児相談事業に取り組み、その業務の充実には専門資格取得が欠かせないため、引き続き中堅職員を中心に外部研修を計画的に推進します。就労援助部門では、障害者の新規就労や就労した後の定着支援のニーズが非常に高まっており、各方面（企業、労働行政、福祉サービス、教育）との連携の上、多くの方々の支援に努めます。

7 就労移行支援事業について

しんわルネッサンス就労移行支援事業は、平成 20 年 4 月 1 日に指定を受け、一般就労を希望する特別支援学校を卒業された方を受入れ、支援プログラムを提供し、就労の準備性を高める事で一般就労への支援を行っています。しかし、平成 30 年 4 月より障害者法定雇用率の引上げにより、企業の特別支援学校からの直接雇用が増、そのため新規利用希望者は 5 名となっています。また、近隣就労移行支援事業所も事業廃止や定員減を行い対応しています。平成 30 年度の報酬改定で報酬形態は定員に対して一般就労へ移行した人数の割合で算出される仕組みへと改定されました。平成 31 年度は、就労支援プログラムの再構築を行う事で、質の高い支援・充実したサービス提供を目指し、地域ニーズに応じた運営形態へと移行すべく、定員を 15 名に変更します。利用者ご本人の自己実現に向け、就労支援に対する専門性を高め、ご本人・ご家族・地域のニーズに応えるべく運営してまいります。

8 作業体系について

- ①ホンダ車部品組立作業は、本田技研工業様のご支援のもと発注を頂いて 45 年目になります。(株)研進との協同で継続して受注確保に努めるとともに、「不具合ゼロ」を目指して ISO9001 : 2015 の定着に努めます。
- ②自動車部品組立作業以外の今年度の作業収入目標を 1 億 7 千万円とします。
- ③自主生産事業は、昨年度に引き続きサンメッセ、ルネッサンスが平塚商工会議所の逸品研究会等へ参加、市内商工関係者と連携のもと製品開発、販路拡大、イベント参加に努めてまいります。特にサンメッセ製パン事業は学校給食、市場等への拡大を図ると共に、プチ・ブーケを新商品の開発拠点とし、今年度も事業の販路拡大と衛生管理の徹底に努めてまいります。サンメッセの「湘南みかんぱん」と、ルネッサンスの「トマトジュース」は、平塚市ふるさと納税返礼ギフトに登録されると共に、平成 30 年 4 月より湘南ひらつか名産品としても認定されています。
- ④ルネッサンスの農産品加工事業は、6 年目を迎える年間を通し生産も安定して来ました。今年度はさらなる品質向上を図り事業推進に努めます。また、6 次産業化ネットワーク協議会の活動を継続し、体制維持を図ります。また安全衛生管理を徹底し、HACCP(食品の製造過程管理基準)の取得に努めます。
- ⑤施設外就労は継続して、神奈川県公園協会様の苗の育成作業、地元しまむらストア様のバックヤード作業と環境整備等の作業請負について取り組んでまいります。
- ⑥在宅就業支援制度の在宅就業障害者特例調整金の活用は、神奈川県公園協会様、しまむらストア様、荒井ベジナス様、(株)研進を窓口として本田技研工業(株)様が対象となります。今後も制度の活用と周知を図り、受注拡大に努めてまいります。
- ⑦いのちの森づくりは(株)研進と共同で、湘南国際村、浜松植樹プロジェクト、NEXCO 高尾・小仏植樹祭、秦野植樹祭に参加する他、さらなる開拓を推進します。また他法人施設との連携（どんぐりブラザーズ）にも努めます。
- ⑧ルネッサンスは湘南西地区及び平塚市の共同受注窓口として、地域の福祉事業所とのネットワークの構築、受注作業のマッチング機能を推進します。年々、受注量は増加傾向にあり連携事業所も増えてきており、更なる協力体制の推進に努めてまいります。
- ⑨「ともしびショップ湘南平」は、平成 28 年度より「サンメッセしんわ」と一体的に運営してきました。平成 30 年 3 月 25 日(日)に内装を一新して、リニューアルオープンをしました。1 階

の喫茶部門は㈱研進と提携し、ホットケーキの店「湘南リトルツリー」として進和学園内で生産するパン類やトマトジュースなどを食材として活用するメニューを揃えています。販売部門は自主生産品やお土産グッズ等を常設販売しています。2階は活動スペースエリアとして、平日は、サンメッセご本人の作業や家族ボランティアの工房として活用し、また、各種イベント、レンタルスペースとしても幅広く活用していきます。

- ⑩平塚市役所の1階東側多目的スペースにおける福祉ショップ「ありがとう」は本年7月で丸5年を迎えます。運営は平塚市内福祉関係団体がひとつになり組織した「ひらつか福祉ショップ運営協議会」が主体となりますが、本年も進和あさひホーム・サンメッセしんわが、その事務局を担当し事業を推進していきます。また生産事業推進会議パフォーマンス部会のFM湘南ナパサ78.3MHzのラジオ番組(ナパサクラブ制作)「バリア!フリフリ天国」(毎週月曜19:00~19:30生放送)に利用者ご本人が中心に参画しており、本年も福祉現場からの情報発信、福祉啓発に努めてまいります。

平成31年3月21日
社会福祉法人 進和学園